

令和6年度 学校自己評価

令和7年4月8日

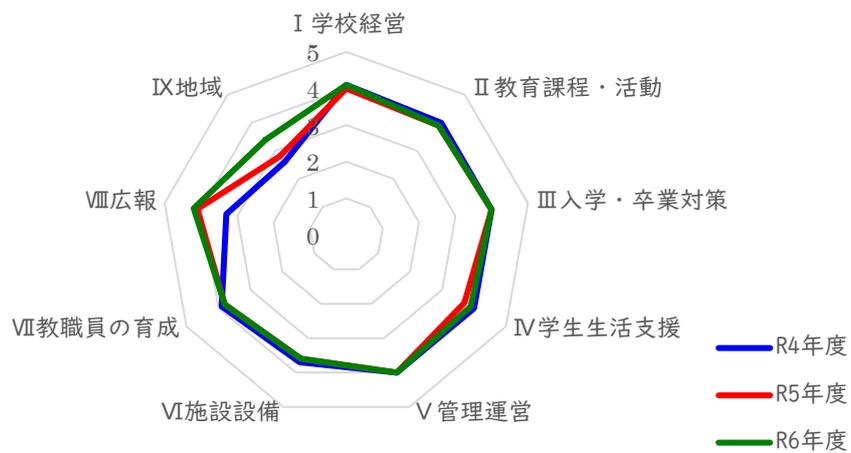
学校運営評価点

項目	令和6年度	令和5年度	令和4年度
I 学校経営	4.1(+0.1)	4.0(-0.1)	4.1(+0.1)
II 教育課程・活動	4.0(±0)	3.9(-0.1)	4.0(-0.3)
III 入学・卒業対策	4.0(±0)	4.0(±0)	4.0(-0.3)
IV 学生生活支援	3.9(+0.2)	3.7(-0.3)	4.0(+0.3)
V 管理運営・財政	4.0(±0)	4.0(±0)	4.0(+0.3)
VI 施設設備	3.6(±0)	3.6(-0.1)	3.7(+0.2)
VII 教職員の育成	3.8(±0)	3.8(-0.1)	3.9(±0)
VIII 広報	4.2(+0.1)	4.1(+0.8)	3.3(-0.8)
IX 地域・国際交流	3.4(+0.4)	2.8(+0.2)	2.6(-0.5)

総評

- ・4項目が3.0以上4.0未満の評価であった。
- ・5項目が4.0以上の評価であった。
- ・3項目の評価が上昇していた。(0.2~0.4)
- ・評価が低下していた項目はなかった。

学校自己評価結果



令和6年度 学校運営の自己評価

評価項目	評価の根拠
I 学校経営	<p>教育理念・目的・目標については、母体病院の理念を反映させた内容をあげている。卒業生像については明文化されているが、卒業後の状況把握については十分にできていない現状がある。</p> <p>年度初めには、組織目標を教職員で共有し、10月には中間評価を行い、目標到達できるよう取り組んだ。会議については、運営会議をはじめ教育会議、業務会議等を定期的に行い、活発な意見交換を行った。特に教育会議は2～3回/月に行い、教育の質が確保できるよう努めた。</p> <p>学校運営に関する学生からの意見や要望は、年度末に各学年にアンケート形式で実施し、次年度の学校運営に反映させるよう努めている。また学内と学生寮には意見箱を設置し、学生が生活しやすいよう意見・要望を募っている。意見・要望に関しては、教職員で検討し学生に検討内容を伝えるよう取り組んでいる。今年度の、学校調査では、学校運営は概ね問題はなかった。</p>
II 教育課程・教育活動	<p>教育課程の編成は、関係法令にそって、設置主体、病院附属の学校としての特色を踏まえ編成している。学生のアンケート結果からは、認定試験が重なったり、課題が多かったりすることが負担であったという意見もあったため、今年度は、認定試験の組み方を変更し、学生の負担が軽減できるよう試験日には講義を入れないよう計画した。</p> <p>講義では、使用するパワーポイントを資料として配布を希望する学生が多くいたが、必要に応じて配布する旨を学生に説明しながら対応していく。</p> <p>昨年度、作成した各実習のルーブリックを評価し、検討しながら修正することができた。また、実習では、教員と実習指導者が連携をとりながら指導に当たり、1回/月の指導者会議で学生指導について検討する機会を設け、学校と病院で学生の学習状況を共有しながら臨地実習での学習をサポートする体制を整えている。昨年度は、援助の調整が難しいという学生からの意見があったため、教職員のミーティング時間を変更し学生のサポートができる体制を整えた。</p> <p>成績評価については、学生に講義・実習共に評価基準を提示している。学生からのアンケートからは概ね良い結果を得ているが、公平性に関する意見があったため、今後も評価基準については学生に丁寧に説明していく必要がある。</p> <p>教育課程については、入学時にガイダンスを行い学習内容の全体が把握できるように、年間計画を配布した。授業科目のシラバスは、授業開始時に学生に提示し担当者が内容の説明を行うようにしており、学生も学習に活用することができていた。</p>
III 入学・卒業対策	<p>今年度は、高等学校の新カリキュラムの学生が受験するため、受験科目の見直しを行い、受験生の力が発揮できるよう、選択科目も取り入れた。今後は、より質の高い学生を確保するために指定校推薦学校の見直しと検討を行う必要がある。</p> <p>国家試験の合格率を昨年度より上げることができた。特に3年次には学生個々の学習状況に合わせて学習支援を行った。前年度不合格者に対しても、定期的に連絡を取り学習状況を把握しながら支援し結果を出すことができた。</p> <p>就職率は100%であったが、母体病院への就職率は64%であった。引き続き母体病院をはじめ連合会病院や地域に貢献できる人材育成を目指す。</p>
IV 学生生活への支援	<p>昨年度に引き続き、教員によるチューター制度の体制を整えた。今年度は、チューター制度に加えてピアサポート制度をとり入れ学生のサポート体制の強化に取り組んだ。学生のアンケートからは「先生に相談しやすい」「困ったとき対応してもらえる」「他学年と交流があり良かった」などの意見があった。昨年度より自己評価が0.2P上がったことは、教員も学生と共に良いかわりができた結果であると思われる。次年度は、ピアサポートをさらに強化できるよう取り組んでいく。</p>

評価項目	評価の根拠	
	<p>健康管理については、校医を中心に健康診断を 1 回/年の実施をした。医療機関への受診が必要な学生に関しては、母体病院と連携を取りフォローできる体制をとっている。母体病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられる体制が整っており、数名の学生がメンタル面のサポートを受けることができた。</p> <p>経済的支援については、母体病院独自の奨学金制度があり、学習に励むモチベーションにつながっている。日本学生支援機構の奨学金については、説明会を行い手続き時にサポートが必要な学生に対しては教務事務が対応する体制を整えている。また、本校は「高等教育の就学支援制度」の認定校となっており、支援が必要な学生の学費軽減につながっている。引き続き、学生個々の経済状況に応じたサポートができるよう努める。</p> <p>学生のクラブ活動は、バレーと茶道部であるが、病院のクラブ活動にも参加できるようになっている。今年度は地域へのボランティア活動を学生自治会が計画し参加することができた。</p>	
V	<p>管理経営・財政</p> <p>本校は病院附属の学校であり、病院経営を基盤に運営している。予算計画は、前年度の評価を基に策定し運営会議で検討している。教員から看護教育に必要な教材や設備について意見を求め、予算確保ができるよう努めている。</p> <p>個人情報ガイドラインは明文化して提示し、必要時追加修正している。個人情報は全て鍵のかかる場所に保管・管理している。</p> <p>災害対策マニュアルとして「いのちを守る防災マニュアル」を学生に配布し、入学時には保護者に災害時の対策について説明し、協力が得られるよう努めている。また、3学年分の備蓄食を学校でまとめて管理し非常時に備えている。</p> <p>防災訓練は、学生寮も含め定期的実施している。また、昼間は母体病院の安全管理担当者、夜間は防災センター警備員が学内の見回りを毎日行い不審者の侵入防止や防犯管理を行っている。</p>	
VI	<p>施設設備</p> <p>校舎は築 35 年以上になるが、耐震基準は満たしており法令に基づき設備点検を定期的に行っている。以前より学生から女子更衣室が狭く、不便であるという意見があったため、今年度は改修工事を行い更衣室の環境を整えることができた。</p>	
VII	<p>教職員の育成</p> <p>教員は、県が主催する専任教員継続研修に、それぞれのキャリアに応じて参加したり、各自が必要に応じて研修会や学会に参加し、個々の成長につながるよう努力した。また、母体病院での研修会に参加したり、e ラーニングを活用した学習に各自が取り組んだ。院外研修参加後は、伝達講習する機会をできるだけ設け、知識の共有ができる環境づくりを行った。</p> <p>学内では授業研究を行い、授業後はディスカッションする場を設け、担当科目の位置づけや科目とのつながりを考えたり、教材や方法の工夫につなげることができた。</p>	
VIII	<p>広報</p> <p>受験生確保の取り組みとして、できる限り高等学校へ訪問したり学校説明会に参加し本校の PR ができる場を設けた。また、「指定校推薦」の高等学校の検討を行い受験につなげることができた。今後は、東部地区と広島市内の指定校推薦高校の検討を行い、指定校推薦で受験する学生数が増加するよう取り組む。今年度は、広報活動グループが中心となり、ホームページが充実するよう、動画を作成したり、写真をアップするなど学生と共に取り組むことができた。また、雑誌や SNS を活用した情報発信の強化もおこなった。引き続き、本校で学ぶことの魅力を伝えられるよう、学校全体で広報活動に力を入れて取り組む。</p>	
IX	<p>地域貢献</p> <p>今年度は、学生自治会主催で学生祭を開催し、地域の方にも来校していただいた。健康体操や手浴体験など学習の成果を発表する場を設けたり、楽しむことができる催しを実施した。また、地域貢献として「子ども食堂」や「清掃活動」、保育所での行事のボランティアに参加することができた。</p>	